

—夏季大学雑感—

第22回夏季大学「新しい気象」講座雑感

日本気象協会北海道支社 中田 琢志

第22回夏季大学「新しい気象」は、去る7月26～27日に開催され、23名の受講者に参加いただきました。

今年度は、やや少なめの参加者でしたが、熱心に聴講し、講演終了後にも残って講師の方に質問されていたのが印象的でした。

1日目は、札幌市青少年科学館で「海洋の雪（マリンスノー）と将来の気候」（講師：北海道大学大学院地球環境科学研究科助教授 山中康裕氏）、「身近な天気～キャスターの目を通して～」（講師：日本気象協会北海道支社 石掛貴人氏）の講義と館内見学を行いました。

山中講師は、専門分野である海洋の生物化学的サイクルのモデリングにより、二酸化炭素の将来予測を研究されており、一般の方にもわかりやすくお話していただきました。二酸化炭素の増加と地球温暖化の関係についてと、二酸化炭素の削減のための世界的な取り組みの枠組みについても説明されました。

石掛講師は、九州や関西と北海道の、冬の雪や夏の暑さの違いの話を皮切りに、お天気番組のビデオ映像も用いて、お天気キャスターの1日の生活と天気予報の自由化による予報作成の苦労話など、普段聞けない興味深いお話をされました。また、最近の気象特性や、マラソンと気温の関係といった身近な気象のお話をされました。

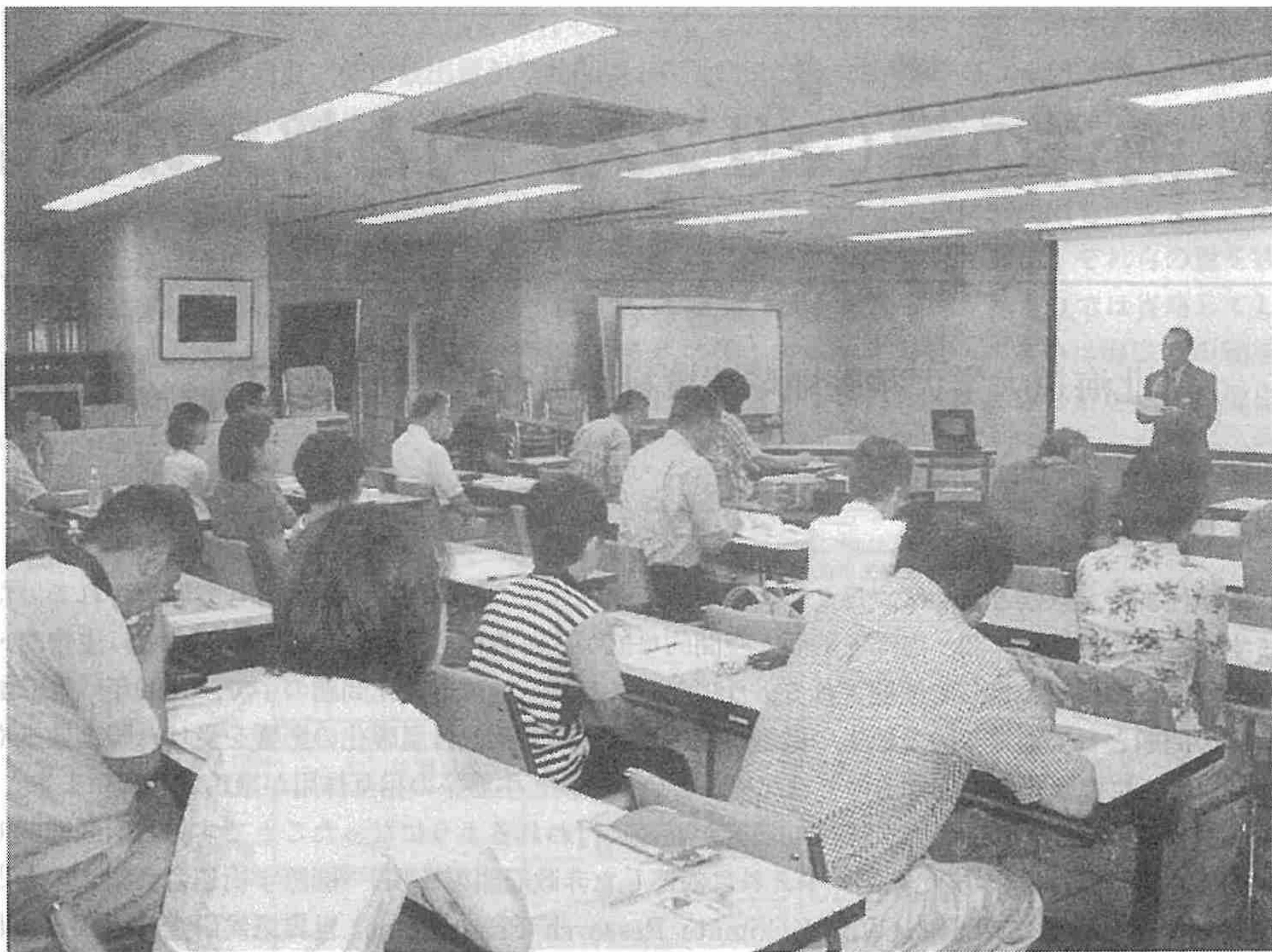
2日目は、札幌管区气象台で「21世紀の地球温暖化と気象の異変」（講師：札幌管区气象台長 松尾敬世氏）、「宇宙の雪と塵」（講師：北海道大学低温科学研究所教授 山本哲生氏）の講義と台内見学を行いました。

松尾講師は、地球温暖化で気象がどう変わり、これからどう悪くなっていくのか、それを防ぐためにはどうしたらよいのか、を一般市民である講座参加者の目線にたってわかりやすくお話されました。ここ20年間は気温が急上昇しており、今世紀末には、日本付近では3℃程度上昇し、潮位も50cm上昇するかもしれない、とのことでした。

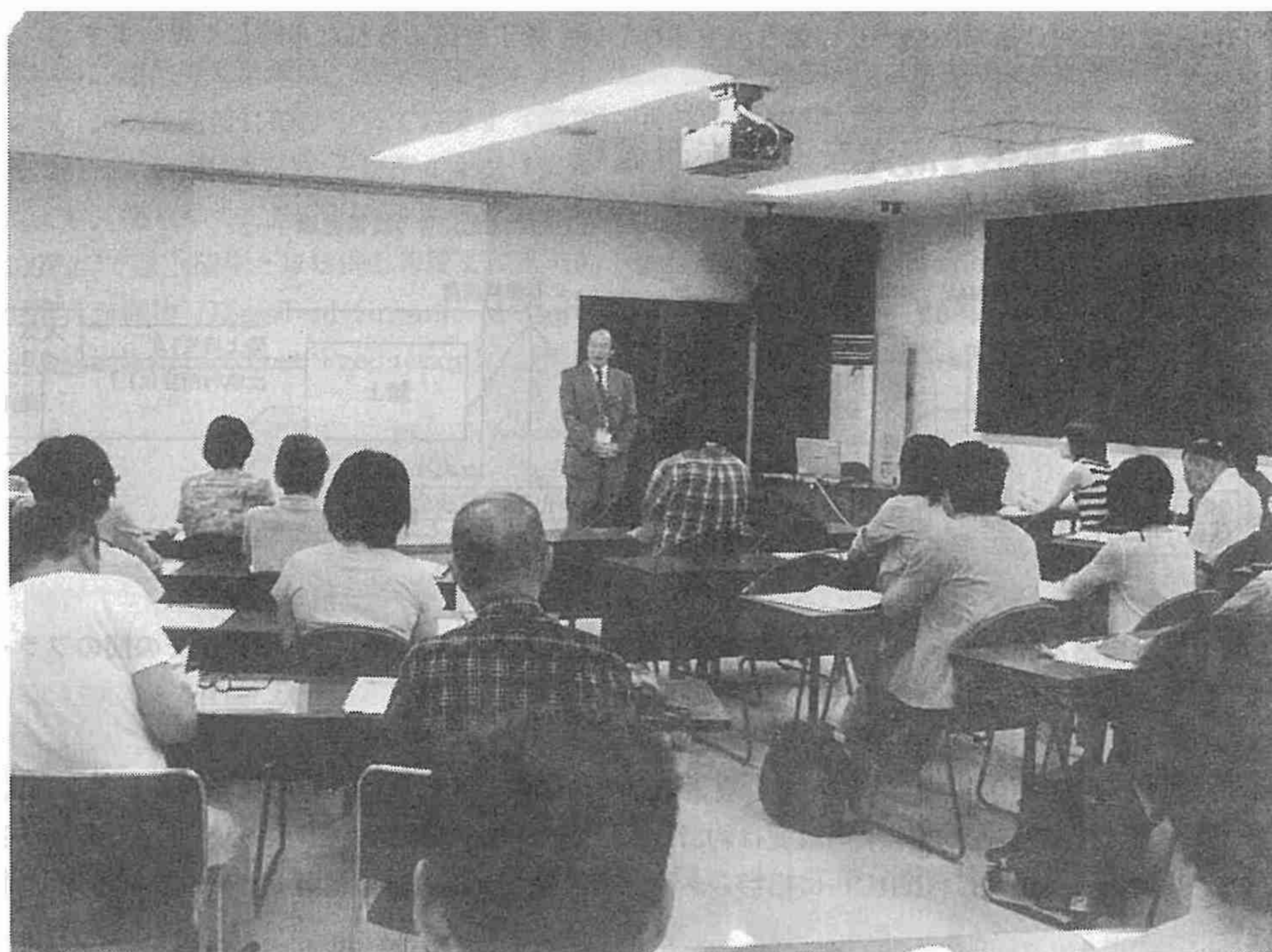
山本講師は、暗黒星雲（宇宙の塵の集まり）から惑星が誕生するまでの過程をわかりやすく説明して下さいました。現在観測されている銀河系外の惑星は木星型のみであるが、10年以内には生命の存在する地球型惑星が見つかるかもしれないとのことでした。惑星から生命誕生までの壮大なシナリオの解明が今後の課題とのことでした。

今回の講座では、ほぼ半数は初めての参加者でしたが、20回目の参加という方をはじめ、3回目以上という方が7名いらっしゃいました。

最後になりましたが、今回の講座開講にあたりましてご尽力いただいた講師の方々、札幌市青少年科学館、および札幌管区气象台の皆様、厚くお礼申し上げます。



開講挨拶（札幌市青少年科学館）



受講風景（札幌管区气象台）